

令和7年度 第3回 白脇小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年1月30日（金） 13時15分から15時00分まで
- 2 開催場所 白脇小学校 会議室
- 3 出席委員 田口 博、鶴屋 義照、柳川 樹一郎、清水 哲夫、外波山 裕康、大石 絵理、中村 真弓
- 4 欠席委員 望月 真菜（学校支援コーディネーター兼務）
- 5 オブザーバー 齋田 剛志（白脇協働センター コミュニティ担当）
- 6 学 校 神 宏之（校長）、廣野 希代美（教頭）、安川 剛史（教頭）、榛葉 崇文（主幹）、植田 敬子（CSディレクター・学校支援コーディネーター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 植田 敬子
- 9 議長の選出

司会の榛葉から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鶴屋副会長からの推薦により、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 学校関係評価について／学校評価の結果から
- (2) 次年度の学校運営の基本方針の概要説明
- (3) 学校運営協議会の自己評価について

11 会議記録

司会の榛葉から、委員7名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校評価から

議長の指示により、主幹から別紙資料に基づき、本年度の学校評価について、肯定的な回答が90%を超え、本校の教育活動における「成果」として捉えられる項目、肯定的な回答が85%未満で、今後重点的に取り組むべき教育上の「課題」として認識された項目について説明した。また、令和6年度のアンケート結果と比較をし、昨年度より肯定的な回答がおおむね増えた現状を報告した。その後、結果からわかること、これから改善すべき点などの意見を出し合った。

- ・ 教員と児童・保護者との意識の違いがみられる。（清水委員、柳川委員）
- ・ ”学校が楽しい“という結果にすべてが集約されているのではないか。”教員が話を聞いてくれる。“という結果は教員を頼りにしているという表れだ。（田口委員）
- ・ 「安全」に関して、子供と保護者の“そう思う”のギャップがありすぎる。→子供の「安全」に対する意識を高める努力が必要だ。（鶴屋委員）
- ・ 前年度より肯定的意見が増えていることは学校の取り組みが功を奏しているのではないか。（外波山委員）
- ・ 「学校が楽しくない」と思う子供が6%いる＝1学年に10人程度いる現状が分

かる。これをいかにゼロに近づけていくかが今後の課題。(鶴屋委員) 何が原因になっているか、友達との関係はどうかなど、アンケートでは見えない部分を深掘りしていかないとその次に進めないのではないか。(田口委員、大石委員)

- ・ 「学校に相談できる相手がいる。」に肯定的な意見が多く安心する。(中村委員)
- ・ 今の子供は”ケンカ“をしないため、鬱積したものがたまっているのではないか。(柳川委員) →家庭など発散できる場所があることが大切になってくる。(田口委員)

(2) 次年度の学校運営の基本方針の概要説明

校長より、第4次浜松市教育総合計画の「目指すこどもの姿」が、今年度白脇小学校として取り組んでいる学校教育目標とおおむね合致しているので、来年度も今年度を継続していく旨を説明。その中で、土台である「確かな子供理解、安心・安全を守る、開かれた学校づくり」を土台に、「子供と向き合うためにどうしていくか?」かの具体策を説明。声掛けや一人一人に寄り添う指導など、子供・保護者に徹底的に向き合う時間を作るために、地域、保護者の方々のこれまで以上のサポートの必要性を報告し、出席者全員から承認を得た。その上で、意見を出し合った。

- ・ 「児童と向き合うこと」と「働き方改革」という、両方を上手く進めていくためには、人手が必要になる。今まで以上にCSを活用することが有効的である。(清水委員)
- ・ 平日昼間の時間帯に余裕がある地域の方々を取り込んでいくべき。地域にどう周知していくかが今後の課題。(外波山委員、田口委員)

(3) 学校運営協議会の自己評価

田口会長が作成した市教委に提出する学校運営協議会自己評価を伝え、今年度の活動を振り返り、次年度の取り組みについて確認した。

(4) その他の連絡事項

- ・ 廣野教頭から今年度の学習ボランティアの活動実績及び保護者からの感想等を別紙資料に基づき報告する。また、夢育やらまいか(CS加算分)の用途の報告もあった。
- ・ 司会から学校運営協議会委員のためのオンライン研修会の開催について説明があった。
- ・ 司会から、次回会議は、令和8年5月21日(木)午後13時30分から会議室で開催する旨の報告があった。